

中川正春の永田町かわら版

2005/3/24 第231号

民主党三重2区総支部連合会 衆議院議員中川正春事務所

E-mail g03063@shugi.in.go.jp

三重/〒513-0013鈴鹿市国分町453-7 TEL: 0593-73-3933/FAX: 0593-74-3088

東京/〒100-8981永田町2-2-1 衆議院第一議員会館428 TEL: 03-3508-7128/FAX: 03-3508-3428

○年金の与野党協議始まる

年金の問題について、与野党の協議が始まっています。自民・公明の主張は、国会の外に協議機関を新しく作って話し合うこと。中味については、一元化とは言うものの、共済年金と厚生年金の一元化だけ。しかも、医療や介護の問題も合わせて、社会保障全般を話し合おうという主張です。

これに対して、民主党は、まず、国会の中で国民が中味の見えるかたちを前提に議論する事。一元化は、国会議員年金、公務員共済や基礎年金(国民年金)など、全ての年金を一元化して、公的な年金は、まず一本の共通した制度を作ろうと主張しています。さらに、これまで社会保障全般の議論が必要と言いつつ、目一杯制度改革の先延ばしをしてきた与党の手には、のらない。まず、年金から片付ける、そして次に医療の議論へと、メリハリをつけることが先決だと主張しています。

入り口で行ったり来たり。これから先が思いやられます。

○北朝鮮、国家ぐるみの俺々詐欺

先日、「北朝鮮帰国者の生命と人権を守る会」の皆さんが、元日本人妻や脱北してきた元在日コリアンの証言集を開いてくれました。私たちが国会へ提出した北朝鮮の人権侵害救済法案を成立させるための応援です。

彼らの話の中で、ここ1、2年は、北朝鮮に残してきた身内から頻りに電話がかかり、「金を送って欲しい。」と訴えることが多くなってきているという証言が引っかかりました。組織的に脱北者の身内を拘束して、収容所などに入れ、そこから官憲の監視の中で、日本へ逃げた親兄弟などに電話をさせているフシがあります。現に日本から送った金は、多い時には半分、少ない時でも1割は当局にピンはねされて身柄の拘束をかうじて免れるなど、聞くに堪えません。卑劣きわまりない人質をとった上の国家による「ゆすり」が行われているのです。何たる国かと思えます。

○大規模災害の議員立法提出

大規模災害時に国民の義援金を税金から控除する法案を3月18日に国会に提出しました。

スマトラ沖地震で小泉首相が約500億円の援助をすることを地震直後に表明しました。これを批判して、多くの電話をいただきました。「あれは、小泉さんのパフォーマンスやないか。アメリカの大統領は、クリントンや親ブッシュも皆が並んで、義援金の拠出を国が出すより先に国民が出すように訴えた。国民が参加する気持が大事や。」対応をどうしようと考えていた矢先に、福岡でまたしても大変な地震が起きました。

今回の法案は、日本の総理大臣がまず国民に義援金を出そうと訴えられる仕組みを作ろうというものです。国内のNPOや海外で活躍するNGOを通じて、国民が大災害の義援金として寄付をすれば、それを税金から控除することが目玉です。そうする事によって、どれだけの額を税金から義援金に回すかということに、国民の意志を反映させることが出来ます。国内でも大災害にNPOやNGOの活躍はなくてはならないものになってきました。国や官僚だけが補助金という形で税金の使い方の優先順位を決めていては、国民には永久に不満が残ります。議員立法という形で新しい工夫をどんどん提案していきます。

○憲法と新聞記者

憲法の議論が佳境に入ってきました。最終報告書の原案をめぐって新聞記者がひっきりなしに現れます。中味のスクープ合戦です。憲法にかけては、読売の執念と共同の粘りが一歩リードしているようです。スッパヌキが出るたび、調査会のメンバーの誰が情報をリークしたかで全員腹を立てて犯人探しをします。内容によっては、これでうまく情報操作をする輩もいるから腹が立ちます。

「さあ、寝ようかな。」という時に宿舎にやってくる常連の記者がいます。ほどほどに願います。